

四天王寺ワツソに参加して

藤井 健三(東レOB)

私が、日本と朝鮮半島との文化交流の象徴的なイベントである四天王寺ワツソにボランティアとして関わったのは、2010年が最初でした。三井V-Netの呼びかけに応じて申込み、高麗加西溢(コマノカセイ)という高級絵師の役をいただきました。対馬海峡の荒波を行く当時の船をかたどった山車に、高句麗の大興王とともに乗り、多くのフラッシュを浴びて戸惑いながらも、初体験ながらいい気分を味わいました。



前田様 藤井様 富谷様

今回(2012年11月4日)は、雨で流れた前年とは打って変わって、「いいよ」の文字通り好天に恵まれ、私も小野妹子役で2回目の参加となりましたが、どうしても果たしたいことがありました。それは、前回の私のワツソ出演の話に触発されて、どうしても出たいと熱望する調停委員の同志、富谷七朗氏の参加を実現することでした。まず、三井V-Net入会の手続きをしたうえで、エントリー申込みを済ませ、後は、結果を待つだけ…その結果、彼は、蘇我蝦夷という大役をゲット、大喜びで、当日は、愛妻のカメラにポーズをとり、終始ご満悦でした。

一方の私は、前回の使節団パレードとは異なり、使節団をお迎えする立場で、攝津職大夫役の渋谷天外さんの近くに控えておりました。パレード開始前の控室では、スタッフの方に手伝ってもらい、それぞれの役の衣装に着替えるのですが、変身しながら出演者同士の交流が生まれます。ミスターワツソこと浜村淳さんが、役柄が書かれたワツペンを手私に私のそばに来て、「これ、どうやってつけるんですか」と聞かれるので、そのワツペンを付けてあげたのですが、それがきっかけで雑談をしたり、また、聖徳太子役の衣装に着替えた井植敏さんが、長身でぶらりと部屋に現れ、挨拶を交わしたり、著名な方々ともフランクに交流ができたのが印象に残っています。

隔年で雨にたたられることの多い四天王寺ワツソですが、今年も開催日は昨年同様「いいよ」(11月4日)ですので、好天であることを願いつつ、今度はどんな役柄と出逢えるか楽しみです。